

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	9 / 1963 / 29
タイトル	県下理科研究発表会、動物部門
著者名	佐藤友克

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

県下理科研究発表会

今年度青森県下小中高理科研究発表会は、9月22日青森商業高校に於いて開催された。昨日からの雨も止み、今までの努力を発表すべく会場へ臨む。会場は諸先生生徒などで混雑し、研究発表は10時半ごろより行われた。植物部門では、最後に発表の植物班が最初にくり上がり、皆をあわてさせる事等があり一方動物班は大した変動もなく順調に進み、審査員よりお誉めの言をいただき、結局、植物班、一位動物班、三位昆虫班一位等の近年にない優秀な成 収めた。

動物部門

佐藤友克

第16回県下理科研究発表会動物部門は青高の1学級に於いて行なわれました。

我が生物部では次の二大研究

○ 青森市に於ける蝶類の研究

(昆虫班)

○ 赤沼プランクトンの日周活動について。(動物班)

各校の研究内容を並べてみますと次の通りです。

1 ミミズのヒフ感覚について。

弘前中央高

2 唾液の働きについて 弘前中央高

3 メダカの食塩水に対する順応性について。 野辺地高

4 アメンボの研究。 弘前学院聖愛高

5 ナメクジの研究 弘前学院聖愛高

6 ヒドラの再生 弘前学院聖愛高

7 赤沼プランクトンの日周活動について。 青高

8 青森市に於ける蝶類の研究 青高

9 浸透圧のゾウリムシの繊毛運動に及ぼす影響。 田名部高

10 淡水魚の海水に対する適応性。 田名部高

11 南八甲田黄瀬沼に於けるプランクトンと溶存酸素及び水温との相互関係 大三沢高

以上の研究内容はそれぞれ特性を持ち非常に興味深いものであつた。

審査員は弘前大学教授で各校の熱弁に傾聴し、大事な点はビタリと抑して鋭い質問をする。(オセジ?) 点などは大学教授の貫録十分だつた。

各校の発表が終了し審査の結果、1位、青森市に於ける蝶類の研究 青高 その項参照

2位 ヒドラの再生。弘前学院聖愛高 再生という小さい範囲の中で深く掘り下げた内容は大変まともであつた。(何百というヒドラをブツ切るといふシーンが続出、ヒドラ残骸物語でした。) 審査員にキ好印象? 発表者は女の子)

3位 赤沼プランクトン日周活動について。青高 その項参照
同位 南八甲田黄瀬沼に於けるプランクトンと溶存酸素及び水

温との相互関係 大三沢高

大変な努力がうかがわれスケールが大きくりつはですが実験内容の粗雑さが目立ちました(男ばかりでした) 当部昆虫班の1位は内容の充実さ、どつしりした重みさえ感じられ、全く他を問題にしなかつた。我が動物班は三上(和)君が発表。(前日は結果のまとめとかで4時間程しかねむらなかつたという?) しかしながら発表時には「生まれつきの落ちつき、を発輝、堂々たるもの。

「バンザイ!」と心の中でさげんだが次の昆虫班の発表を聞いてギャフン。

結局、3位におさまりました。今年は全くすばらしい発表でした。来年は僕達の番です。先輩たちの伝統に負けなないようにがんばります。

